



# GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 44

## 第13回 ISCGM 会合

カレン・クライン博士  
ISCGM 事務局次長

2006年11月11日（日曜日）、ISCGMは、第13回会合をチリ・サンティアゴにおいてGSDI9会議の直後に開催しました。チリ測量局のフアン・ビダル大佐がISCGMを出迎えました。次にテイラー教授が、事務局の地球地図利用のための継続的な努力、とりわけ地球地図の学校パイロットプロジェクトについて述べ、会合を開会しました。また、テイラー教授は、アフリカにおけるワークショップを取り上げ、人材育成についての継続的な努力について述べました。続いてテイラー教授が3年任期のISCGM委員長に再選されました。ピーター・ホランド氏が副委員長、丸山弘通氏が事務局長、カレン・クライン博士が事務局次長にそれぞれ再任されました。

議事では、事務局からの報告に続き、地球地図データの利用性を測る基準が必要であることが集中的に審議されました。データポリシー自体や現在の状況や方針に合わせたデータポリシーの改定が必要であることも審議されました。さらに、完全に検証されていないデータを公開する計画も取り上げられました。また、これで未参加国のデータ作成にはずみがつくことが期待されます。

ワーキング・グループ1の報告も発表されました。ジョン（ジェイ）フーケイ博士の早世のため、テイラー委員長と丸山氏が当面、本ワーキング・グループの共同部会長となります。ワーキング・グループ1は、行動計画（2007年までに完成させる第1版の作成の迅速化）及び第3期計画（新たなレイヤや関連データを見出すこと）に焦点が当てられました。現在未参加の国々を支援するために人材

育成が有効な方法であることが述べられました。また、丸山事務局長がGSDIセッションで発表した、地球地図に参加する多くの機関とのやりとりの難しさを指摘した時間的な問題についても述べられました。多くの場合に、事務局または参加機関のどちらかの人事異動が、地球地図データの処理または整備のかなりの遅れを意味していました。

ワーキング・グループ2（仕様）及びワーキング・グループ4（ラスター・データ）の報告も発表されました。その他の課題として、公開方針の改訂（提出期限の設定及び部分的なデータの許容）、手始めとして国連使用言語を用いた多言語ウェブサイトの開設や防災及び防災管理のための活動などが取り上げられました。

国家地図作成機関の長のみが招待されるケンブリッジ会議の直前に第14回ISCGM会合を開催する旨の英国測量局の提案は認められました。次回の会合は2007年7月14日に開催される予定です。



会合

## 第 13 回地球地図国際運営委員会会合決議（仮訳）

チリ国サンティアゴ市

2006 年 11 月 11 日

### 1. 参加とデータ公開

- a) 地球地図国際運営委員会（ISCGM）は、地球地図データ整備のための参加機関の継続的な努力と事務局の支援に感謝する。
- b) 第 12 回 ISCGM 会合以降、地球地図プロジェクトの参加国数は着実に増加しているが、未参加国の参加を奨励するためにさらなる努力が必要である。これについては、委員、顧問、リエゾン機関や他の関連機関からこれらの国々に対し働きかけるよう提案する。
- c) 第 12 回 ISCGM 会合以降、地球地図データ第 1 版の整備は著しく進展したが、整備が未完了の参加国に対し、遅くとも 2007 年 6 月までに事務局にデータ等を提出するよう強く奨励する。
- d) ISCGM は、事務局に対し、データ公開を促進するための活動を奨励する。第 10 回会合の決議を念頭に、この活動を支援するために、ISCGM は、地球地図仕様に準拠していなくとも、適切な座標系、楕円体、位置（経緯度）、地物コード、必要な属性項目及びメタデータに関する必要な情報を有していれば、そのデータを受け入れ公開するものとする。これらのデータは非公式な地球地図データとみなされる。ISCGM は、関係する国家地図作成機関（NMO）が遅滞なく正式な地球地図データを作成するよう奨励する。

### 2. 戦略計画

- a) ISCGM は、WG1 の継続的な取り組みに感謝する。
- b) ISCGM は、WG1 が提案する地球地図第 1 版データ整備促進計画及び第 3 期地球地図プロジェクト戦略に同意する。
- c) ISCGM は、委員が WG1 の取り組みを支援するよう奨励する。

### 3. 仕様

- a) ISCGM は、WG2 の継続的な取り組みに感謝する。
- b) ISCGM は、WG2 が提案する地球地図データ仕様（バージョン 1.2.1）の改訂を承認する。
- c) ISCGM は、委員が WG2 の活動を支援するよう奨励する。

### 4. 全球ラスタデータ

- a) ISCGM は、WG4 による全球土地被覆データ整備及び全球樹木被覆率データ整備の大きな進展を賞賛する。
- b) ISCGM は、地球地図第 1 版データ整備の完成に向けて、WG4 が報告書で提案する作業進行手順を支持する。
- c) ISCGM は、委員が WG4 の活動を支援するよう奨励する。

### 5. 人材育成

- a) 地球地図整備を促進するために人材育成が著しく重要であることを認識し、ISCGM は、日本国政府が行う地球地図パートナーシップ・プログラム、国際協力機構（JICA）、セネガル

測量局 (DTGC) など、セネガル国ダカール市における地球地図セミナーの主催者および支援者の貢献に心から感謝する。

- b) ISCGM は、1994 年以來、毎年日本で行われている JICA 集団研修地球地図作成技術コースの役割に心から感謝する。
- c) ISCGM は、ESRI による地球地図 /GSDI グラントの実施、及び INTERGRAPH による人材育成のためのグラントに引き続き心から感謝する。
- d) ISCGM は、委員が積極的に人材育成活動に貢献するよう奨励する。

#### 6. ユーザアウトリーチ

ISCGM は、日本が実施する利用者へのアウトリーチ活動に感謝し、地球地図の利用促進を図るため、委員は積極的にアウトリーチ活動を行うよう奨励する。

#### 7. ISCGM ウェブサイト

- a) ISCGM は、ISCGM ウェブサイトを通じた情報発信のための事務局の継続的な努力に感謝する。
- b) ISCGM は、事務局に対し、多言語対応のウェブサイトを整備するよう奨励し、また委員に対し、その取り組みを支援するよう奨励する。

#### 8. 関係機関との連携強化

ISCGM は、アジア太平洋、アフリカ及び米州地域の国々の、地球地図データをもとにした地域基盤データ構築に対する努力を賞賛し、これらの地域の委員に対し、地球地図プロジェクトの持続性を強化するために、それらの地域イニシアティブとの連携を強化するよう奨励する。

#### 9. 災害

ISCGM は、WG1 に対し、災害の軽減、災害管理及び防災のためのデータ整備に関する新しいワーキンググループの設立準備を行うよう奨励する。

#### 10. GEO

- a) GEOSS 構築における地理情報の重要性を鑑み、ISCGM は、委員、顧問、リエゾン機関やその他の関係機関に対し、GEO に関する活動に積極的に関与することを奨励する。
- b) ISCGM は、地球地図プロジェクトに参加している NMO に対し、GEO における ISCGM の活動のひとつである基礎的地理情報調査へ協力するよう奨励する。

#### 11. 次回会合

ISCGM は、次回会合をケンブリッジで開催する旨の英国測量局の提案に感謝し、次回会合を 2007 年 7 月 14 日にケンブリッジで開催することを決議する。

#### 12. 謝辞

ISCGM は、今回の会議開催にかかるチリ国測量局の労に感謝する。



チリ測量局

## 第 9 回 GSDI 会議

エドウィン・ハント  
チリ軍測量局



エドウィン・ハント氏

第 9 回 GSDI 会議が 2006 年 11 月にチリにおいて開催されましたので、その概要を以下に報告します。11 月の最初の二週間に南米チリにおいてチリ軍測量局 (IGM) の主催により、第 9 回全地球空間データ基盤会議 (GSDI-9) をはじめ、多くの行事が開催されました。GSDI9 を中心に、ISCGM13 会合や以下に掲載するものなど、他の機関の主催によるいくつかの行事が併せて開催されました。

米州地域空間データ基盤常置委員会 - PC-IDEA

- ・ 空間データ基盤 (SDI) 研修ワークショップ (10 月 30 日～11 月 3 日)
- ・ 委員会会合 (11 月 7 日)

国連地理情報ワーキング・グループ - UNGIWG

第 7 回本会議 (11 月 2 日～4 日)

全地球空間データ基盤協会

- ・ 理事会 (11 月 4 日及び 10 日)
- ・ 総会 (11 月 5 日)
- ・ GSDI9 会議 (11 月 6 日～10 日)

第 9 回地球科学会議 - ESC (11 月 6 日～10 日)

国連食糧農業機関 - FAO

ワークショップ - 全球土地被覆ネットワーク (GLCN) (11 月 3 日及び 8 日)

米州地球地図 - MGA (11 月 10 日)

地球地図国際運営委員会 - ISCGM (11 月 11 日)

汎米地理歴史協会 - PAIGH  
総会 (11 月 12 日～16 日)

(GSDI9 を含む) ほとんどの行事は、チリの首都のサンティアゴにある軍及び歴史博物館もしくは IGM の建物 (MGA-2 及び ISCGM13 等) のどちらかで開催されました。また、PAIGH 会合はサンティアゴ郊外 (ビニャデルマル) で行われました。

最も重要な行事である GSDI9 会議には 90 分の地球地図セッションが盛り込まれました。多くの参加者を集めた 8 日 (水曜日) のテクニカル・セッションでは以下の四つの発表が行われました。(1) 日本、国土地理院の坂部真一氏は地球地図の世界的状況の概要について報告し、(2) ブラジル、IBGE のアンナ・フレイタス氏はブラジルの主な SDI の取り組みと同国の地球地図プロジェクトについて説明し、(3) キューバ、GeoCuba のアリナ・デル・リオ・マルソー氏はキューバの地球地図参加について述べ、(4) エドウィン・ハントは地球地図の利用の問題の概要を説明しました。

9 日 (木曜日) に地球地図ミーティングが行われ、地球地図整備についての発表 (丸山弘通氏) で始まり、土地被覆データ (建石隆太郎)、地球地図アルゼンチン (アマドール・スワレス) と続き、さらに地球地図のための地域的な取り組み間での協働作業の重要性について総括的に論議されました。

地球地図で活躍する人々は、この機会に参加し連絡をとるために、多方面にわたる行事に足を運びました。たとえば建石隆太郎 (ISCGM WG4 部会長) は、第 2 回 FAO ワークショップ

において同氏の行っている土地被覆について発表しました。6日（月曜日）には、ISCGM事務局員がIGMで地球地図チリ整備の進捗を視察しました。

10日（金曜日）の午後に、PAIGHが運営するプロジェクトの米州地球地図の実行委員会が第2回会合を開催し、米州地域の地球地図を強化するためのいくつかの重要な決定を行いました。完全な議事録がまもなくMGAのウェブサイト(www.mgdelasamericas.org)に掲載されます。11日（土曜日）にはISCGMが第13回会合を開催しました。これについては、別途ISCGM事務局より報告があります。

地球地図の成功にとって決定的な役割を果たし、多くの機関が参加したこの一連の主要

な行事は、全面的に役に立つ重要な機会を提供しました。しかし、過去5回の会合で例外なく併催されていたISCGM-GSDIの行事は、ISCGM-14がGSDIの機会ではなく、他の場所である2007年のケンブリッジ会議で開催されるため、来年は継続されません。



軍及び歴史博物館

## ドイツ・ボンにおける GEO - III 会合

丸山 弘通

ISCGM 事務局長

第3回地球観測に関する政府間作業部会会合(GEO-III)は2006年11月28日～29日まで、ドイツ・ボンの旧ドイツ連邦議会の国際会議センターにおいて開催されました。67参加国及び43参加機関のうち約250名が参加し、2006年作業計画の状況及び4委員会・1作業部会の活動の報告ならびに2007年～2009年の作業計画についての検討が行われました。筆者はISCGMを代表して本会合に参加しました。

2006年作業計画の96のタスクの実施の経験をもとに、いくつかのタスクが廃止され、統合されたものもありました。その結果、73のタスクから成る2007年～2009年の作業計画が随時更新される文書として承認されました。日本とISCGMが中心的な役割をする基盤的地理情報に関するタスクDA-06-05は2006年に終了することになっていましたが、実施を延長するよう決定されました。そのため、ISCGMが行っている「**地理データセットに関する調査**」は、締め切りを9月30日から2007年2月末に延長し

ます。したがって、回答をまだ提出していない機関はできるだけ早く回答を送るようお願いいたします。皆様のご協力に感謝します。

GEOの次回会合は、2007年11月後半に南アフリカ・ケープタウンにおいて、閣僚級会合とあわせて開催されます。



会合

「すべての人々は彼らの発展に都合のよい全体的に満足のいく環境への権利を持つ」

（人及び人民の権利に関するアフリカ憲章）

ガブリエラ・ドラガン

測地地図部地図課課長

国立土地台帳登録局 ルーマニア

環境条件の悪化は病弱や生活の質を低下させる主な要因を意味しています。環境変化を理解するためには、私たちは全球の信頼できる地理情報が必要です。地球地図の目的は、世界の各国家地図作成機関の国際協力により地球環境の現状を正確に表すことです。地球地図プロジェクトは、大変困難な仕事ですが持続可能な開発のために空間データ基盤を整備する機会ともなります。

毎年、国土地理院は、リモートセンシング技術や地理情報システムの技術移転を通じ地球地図プロジェクトを促進するために、多くの国から研修員を受け入れています。2006年8月17日～11月3日まで、ブータン、クック諸島、グアテマラ、ヨルダン、マケドニア、ルーマニア及びスワジランドの7カ国の研修員が、国際協力機構（JICA）が提供する地球地図研修コースに参加しました。

国土地理院は、講義、ミーティング及び実習を通して、地球地図と地球地図作成について技術と知識を提供します。私たちは千葉大学を訪問し、地球地図プロジェクトの一部である土地被覆データ整備及び検証の責任者で、第4作業部会長の建石隆太郎教授と会合を持ちました。

また、国立環境研究所、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、東京電機大学、気象庁及び東京カートグラフィック株式会社も訪問しました。関西方面への研修旅行は、技術的な側面と社会的、文化的な目的を併せて考慮した、特に素晴らしいものでした。

金沢工業大学の日下遼教授から、中国の黄砂とその環境への影響の関係について説明を受けました。また、広島工業大学の菅雄三博士は衛星画像の利点、重要性及びその利用に

ついて強調されました。

本研修コース期間中に、日本の専門家の詳細や業績を知る機会があり、環境政策への最近の研究の取り組み、日本の文化、美しい自然、勤勉な社会や私たちへの記憶に残る心遣いに感銘を受けました。

本研修コースの最後には私たち全員は、地球地図データ整備のための技術と方法を習得すること、特に地球環境問題に対処する政策決定における地球地図の重要性を理解すること、関連分野の最新技術の知識を向上させ、自国で完全に地球地図プロジェクトの調整ができるようになることなど、地球地図コースの目標を達成しました。

本研修コースに関するすべての活動を支援し、研修を素晴らしく学びがいのあるものにするためのすべての講義について、日本国政府、国土地理院及びJICAの努力に私たち全員は心から感謝します。

また、私を本コースに参加するよう推薦したルーマニア政府及び土地台帳登録局に感謝します。この経験は、専門的にも個人としても素晴らしいものでした。



2006年 JICA 地球地図コース研修員

## 地球地図の学校

太田 弘 博士

「地球地図の学校」実行委員会委員長



日本側

2006年9月30日の土曜日、日本とフィリピンとをインターネットで結び、TV会議システムを利用した最初の「地球地図の学校」が開催されました。地球地図の学校は、地球地図を基図として使い、世界の子どもたちがお互いの国・地域を学び、友達として交流し、みんなで地球の未来について考えるプロジェ

クトです。日本側は慶應義塾の一貫校の普通部とフィリピン側はネグロス島ドマゲッティー市にあるシリマン大学の高等部の生徒たちが遥か3300キロを離れた両校で地球地図の画像を見つつ相互交流授業を体験しました。インターネットテレビ会議システムを通し、慶應義塾側の生徒は日本の近代化へと導いた新幹線、高速道路網など、国土整備状況を地球地図上で示し、また、シリマン側の生徒は、フィリピンの地理を地球地図で紹介し、その後、質疑応答も活発になされ、本交流授業は将来の「グローバル・リーダー」の育成に役立つことを予感させました。地球地図の学校では、来年も二国間の学校を結ぶ実験的な交流授業を継続して実施する予定です。交流授業後、日本とフィリピンの参加者によるネットワークショップ「IT時代の教育と地球地図」が行われました。

## 地球地図のデータを利用した地図を作成、展示

木佐貫 順一

ISCGM 事務局

「地球地図」のデータを利用した児童・生徒による作品展が行われました。

12月2日～3日、徳島地理学会主催により「児童生徒による地図作品展」が行われました。小学生から104点、中・高校生から37点が展示されましたが、そのなかに初めて、「地球地図のデータ」を利用した作品が2点寄せられました。この2点は、いずれも優秀な作品で、ISCGM事務局長による「地球地図」賞を受賞しました。

中学生の部ではシャム王朝時代のタイ国と日本の歴史、高校生の部ではオーストラリアの地形及び人口・牛・羊をテーマとしています。

この取り組みは、これまで実施されている地図作品展に連携する形で進められ、今後は日本全国、将来的には世界各国でのイベントにすることを目指していきます。



優秀作品

## 事務局から

### ISCGM WG4 からの協力要請

ISCGM WG4（ラスターデータ担当）では、Global Land Cover by National Mapping Organization (GLCNMO) の整備を進めています。

GLCNMO は、約 20 の土地被覆項目を持つ、ピクセルサイズ 1km のデータで、2003 年に観測された MODIS を用いて作成されます。

2006 年において約 1000 箇所の地上検証データ（土地被覆トレーニングデータ）の収集を各国の NMO の協力により実施しました。

これら各国の NMO から協力を頂いた地上検証データを参考に、現在 WG4 では、データの最終調整を行っております。

2007 年 1 月に事務局から GLCNMO 試作版を各国の NMO へ送付するので、エラーチェックの実施をお願いします。エラーチェックの結果は 2007 年 6 月末までに事務局に返送して下さい。エラーチェックの結果を反映させた GLCNMO 修正版を 2007 年 12 月までに完成させ、ISCGM ホームページより公開する予定です。

については、各国の NMO におかれては、今後送付する GLCNMO 試作版へのエラーチェックに協力願います。

### データ公開

最近三カ国 / 地域の地球地図が公開されました。公開国と公開日は、地球地図アルゼンチン（10 月 23 日）、地球地図南極（12 月 6 日）及び地球地図ヨルダン（12 月 8 日）です。現在、27 カ国 / 地域の地球地図が公開されています。

### プロジェクト参加

地球地図プロジェクトには現在 172 カ国 / 地域が参加しています。新たに参加した機関と参加日は以下のとおりです。

機関名	国名	参加日
軍測量局	サウジアラビア王国	10 月 3 日
国立地図局	ガボン	10 月 20 日
測量土地登記局	ブータン	10 月 27 日
地形地図局	中央アフリカ共和国	11 月 1 日
地図地籍局	ギニアビサウ	11 月 13 日
国立地理院	ギニア共和国	11 月 13 日
地図地籍局	トーゴ	11 月 13 日

## 地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

### 2007 年

- 5 月 31 日～6 月 1 日、イタリア・ローマ  
第 24 回 ISO/TC 211 本会議
- 6 月 12 日～15 日、韓国・ソウル  
第 13 回 PCGIAP 年次会合

- 7 月 14 日、英国・ケンブリッジ  
第 14 回 ISCGM 会合
- 7 月 15 日～20 日、英国・ケンブリッジ  
ケンブリッジ会議
- 12 月 1 日～2 日、中国、西安（予定）  
第 25 回 ISO/TC 211 本会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)